

曾於文藝

俳句

末吉俳句会

草々を撫でて過ぎゆく花の風

湖城 公子

雲ゆけば見送ってゐる花の雲

瀬戸内 紀子

水草生ふ三步で渡る橋架かり

本浦 玲子

大隅俳句会

春キヤベツ料理番組直盛り

川崎 綾子

贅沢に縁なき吾に花満つる

吉川 ツミ

卵浪寄す小さき島の動きをり

岩重 みどり

短歌

末吉山茶花短歌会

気紛れな風耳もとで囁きぬ
あじさい新葉顔出しおり

秋本 教子

入れ歯にて噛むことかなわぬ

福の豆まかずに追うは吾に棲む鬼

西 昌子

笹藪に歩み止める烏瓜赤く

うれおり言無き出会い

松崎 さち江

大隅短歌会

年寄りの不調を案じ訪ね行くひ

とり住まいのただひそかなり

安藤 フヂ子

声の出ぬ長患いの長男の有難う

のメモ嫁より届く

吉崎 フサ子

離り住む次男に贈るとチョコを選

る義姉よ兄の死越えていきまし

川辺 玉枝

財部短歌会

梅開き小鳥さへづり空なごむ自
然は春へ移ろひ初むる

橋口 貞男

モザイクの光を放つ屋根瓦チヨ

コレート色の春真つ盛り

祝迫 道雄

不意打ちの烈しき風雨に満開の

梅の花びら土に散りばふ

児玉 次雄

華やける成人式の報道に思ひ出

したり徴兵検査

富山 治雄

新しき暦の抱く道重しひと日な

りともおろそかならず

瀬戸口 芳子

車椅子の身となり集ひし高齢者

の歌声明るくホールに溢る

杉村 リカ

沈丁花・佗助・紅梅・寒椿香り

豊かに花咲き競ふ

川俣 若

実るほど頭をあぐる政・角界稲

穂に見習ふ品格の欲し

井上 澄子



さくら (旧岩北駅前)

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

職き恵つ 親と別れも
楽し娘

南川 句句

野兎ぐば 別れ遠足で

追散らけつ 堀 独活

昨日逢たて 別れが惜ね

親し友 鈴木 一泉

大隅薩摩狂句会

孫ん子い 危ね危ねち

うぜらし婆 太良木 五徳

子供にな 危ねち言たて

我がわ嵌つ 福元 多喜子

農繁期 危ねち柱て

児を繋ねつ 津留 群志